



Y ICHITOKU

川越市立特別支援学校 学校だより

令和8年1月15日発行 第9号

学校教育目標『ひとりだちする生徒』

TEL049-222-2753 Fax049-229-1231

今年もよろしく願っています

校長 肥留間 智子



「おはようございます」「明けましておめでとうございます」「今年もよろしく願います」と、1月8日の朝は、昇降口や廊下で聞こえる生徒たちの気持ちのいい挨拶から始まりました。始業式では、服装や姿勢を正して話を聞いている姿が、大変たくましくやる気に満ちている様子がうかがえました。3年生は卒業式まで、1・2年生は修了式まで、令和7年度のまとめをしっかりと行い、4月以降の新しいスタートの準備ができるよう教職員一同、生徒たちに寄り添い支援していきたいと思えます。

始業式では、以下の話をしました。(一部抜粋)



今年は、「午年」です。「午(馬)」は、どのような動物ですか。「走るのが早い」「駆け抜ける」「スマート」「エネルギー」・・・など、「元気な」「勢いのある」というイメージがあります。そして、「幸せ、福を運ぶ」とか「神の使い」という「縁起の良い」という意味もあるようです。

今日は、令和7年度のまとめである三学期の始まり、と同時に2026年、令和8年の始まりなので、気持ちを新たに「馬」に関する言葉を、皆さんに伝えたいと思えます。それは、「人間万事塞翁が馬」という言葉です。

この言葉は、「人の人生の幸・不幸は予測することができない。幸運も喜ぶに足らず、不幸もまた悲しむにあたらぬ」ということを意味しています。

つまり、自分にとって「よいこと」と感じたことでも、見方や考え方、もしかしたら時間が経つと「よいこと」ではないかもしれない。また逆に自分にとって「悪いこと」と感じたことでも、「悪いこと」ではないかもしれない。「幸せかどうかは予測ができないものだ、何が幸せになるかはわからない」ということです。

3学期は、3年生は卒業式まで、1、2年生は、修了式までの約3か月間です。また4月には、3年生は社会人として、1、2年生は学年が上がって2、3年生として、新たな始まりになります。

私たちは人間ですから、失敗もしますし、新しいことを始めるには、うまくいかないこともあります。当然、いいこともたくさんあると思えます。いいことは喜んでよいと思えますが、自分にとってよくないことが起こったとしても、それは見方や考え方、時間が経つと、自分にとって「よいこと」であるかもしれない。よくないことが起こっても、くよくよしたり、つまらない顔をしたり、投げやりになったりすることなく前向きにとらえる方が幸せだと、私も思えます。そうすれば、「笑顔」で過ごすことができます。楽しい毎日を過ごすか、つまらない毎日を過ごすかは、自分の考え方ひとつだということです。

ぜひ、皆さんも今年は「人間万事塞翁が馬」の考え方で過ごせたらと思えます。

